

FAOハイレベル会合の結果概要

平成20年6月
農林水産省

1. 日時・場所:平成20年6月3-5日
FAO本部(ローマ)

2. 出席者

サルコジ仏大統領、ナポリターノ伊大統領、ルーラ・ブラジル大統領、バン国連事務総長、ゼーリック世銀総裁等の約50ヶ国の首脳や国際機関の長が出席。
(参加は180ヶ国)

3. ハイレベルセグメント(閣僚級会合)

(1) 福田総理が会合初日(6月3日午前)に演説(参考1)

今回の会合の成果を土台にサミット議長国としてG8サミットでの食料問題の議論へつないでいく旨表明。

(2) 若林農林水産大臣が会合2日目(6月4日午前)に副議長を務めた。

4. 宣言(概要)(参考2)

(1) 我が国の主張のうち、各国の食料生産の強化を基本とする食料安全保障の確立については、「食料安全保障を国家の政策として位置づけること」及び「食料生産を強化するとともに農業への投資を拡大すること」という二点が基本的原則として特に強調した形で記載されている。

(2) 輸出規制について、「国際価格の不安定性の増大につながる制限的な措置の使用を最小のものにする必要性を再確認する」、バイオ燃料の生産や利用については、「食料安全保障の達成・維持の必要性等を考慮した詳細な検討が必要」という文言が盛り込まれている。